

2018 100 WHO'S NEXT?



輝き続ける夏の主役

第100回 全国高校野球選手権記念大会

ホームランでスタンドを沸かせる強打者、いくつもの三振を奪う好投手。夏が来れば思い出す、大会を彩ったヒーローたち。

記録や歴史をつくった監督やマネジャーらも話題になりました。球場で輝きを見せた「あの夏の顔」を振り返ります。



THE STORY BEGINS.

輝き続ける夏の主役

第100回 全国高校野球選手権記念大会

ホームランでスタンドを沸かせる強打者、いくつもの三振を奪う好投手。夏が来れば思い出す、大会を彩ったヒーローたち。

記録や歴史をつくった監督やマネジャーらも話題になりました。球場で輝きを見せた「あの夏の顔」を振り返ります。

1971
53

1970
52

1969
51

1968
50

磐城(福島)
田村隆寿

東海大相模(神奈川)
原貢監督

三沢(青森)
太田幸司

興國(大阪)
丸山朗

準決勝まで完封を続けたが、決勝の1失点で大優勝旗の白河越えに届かず

47回大会の三池工での初出場優勝に続き、史上初の異なる高校での全国制覇

決勝で井上明(松山商)と延長十八回まで互いに無失点。史上初の決勝再試合に

技巧派下手投げで新浦寿夫(静岡商)との投げ合いを制し、初出場優勝

1955
37

1954
36

1953
35

1946
28



四日市(三重)
高橋正勝

新宮(和歌山)
前岡勤也

松山商(愛媛)
空谷泰

浪華商(大阪)
平古場昭二

初出場初優勝。カープを武器に、「番狂わせ」と言わされた快進撃

3回戦で延長17回を完封。準決勝は中京商(愛知)のバント攻めに敗れる

準決勝まで3試合連続完封。決勝は延長13回の熱戦を制し全国制覇

西宮球場で再開した大会で優勝。準決勝で19奪三振。決勝も13奪三振で完封

1929
15

1928
14

1927
13

1920
6



慶應商工(東京)
黒崎数馬

松本商(長野)
中島治康

福岡中(岩手)
村田栄三

関西学院中(兵庫)
沢昇

大会初とされる選手宣誓。「訓辞の通り正々堂堂とかひます」

シュートなどで両角を突く投球で全国制覇。後にプロ野球史上初の三冠王に

3回戦で九回1死三塁から日本野球史上初とされる満塁策を試み、成功させた

肋膜(ろくまく)炎による40度近い高熱を押して登板。優勝投手になるが、早世する

1929
15

1928
14

1927
13

1920
6



甲陽中(兵庫)
岡田貴一

和歌山中
井口新次郎

静岡中
田中市太郎

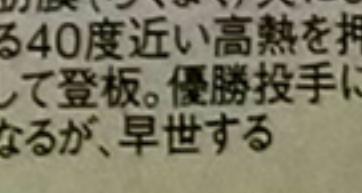
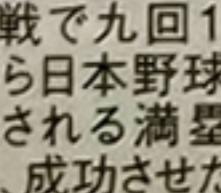
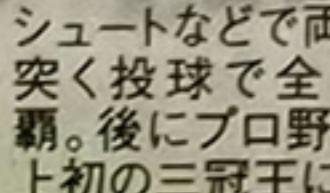
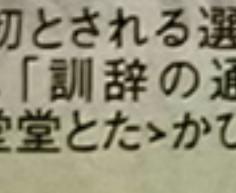
和歌山中
北島好次

2回戦の九回に逆転3ラン。強打と好配球で初出場で優勝を果たした

横手から投げ込む剛球で全国制覇し、四国に初の優勝旗をもたらした

開幕戦で甲子園球場第1号本塁打。大会史上初の満塁本塁打だった

前年は大会最多の16得点を記録し、今大会は主将で4番エース。初の連覇



1923
9

1922
8

1921
7

1920
6

